

# 海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

## “「天水桶」とその来歴”



現在の天水桶  
高さ118.4cm、最大円周(ふた)313.3cm、直径(ふた)99.6cm



三菱ショールーム(1958年12月にオープン)の入り口を飾った天水桶  
三菱ショールームパンフレットより(当館所蔵)



『ゆうせん』1958年3月号



繰り返し「土佐」と刻まれた天水桶の上縁部

**1** 870(明治3)年の鑄造で九十九商会から  
NYKに受け継がれた「我社の大丸」<sup>※1</sup>天水桶<sup>※2</sup>  
の戦中期以降から現在までをたどります。

1942(昭和17)年、天水桶は金属回収令を免れるため、新設の横浜市市民博物館に預けられました。しかし同博物館は1944(昭和19)年に観覧事業を中止、戦中戦後の混乱を避けられず、紛失あるいは破損を被った収蔵品もあつたようです。天水桶についても当時の所在が記録された文書類は現時点では見つかっていません。

行方不明と思われた天水桶の帰郷を報じたのは『ゆうせん』1958(昭和33)年3月号でした。記事には「最近に至って横浜市の市史編纂室に保存されていることが判明、同市のご好意で返還を受け」とあり、「社史を語る天水桶」というタイトルを背負って誇らしい姿を披露しています。

ようやく古果に戻った天水桶、今度は本店の隣、三菱商事ビルの1階にオープンする三菱ショールームへの出陳要請があり、三菱グループのシンボルとして貸し出されました。パンフレットには大きな屋根根を載せ鎮座する天水桶が写っています。

天水桶はその後、1965(昭和40)年青山社員倶楽部に移設。1993(平成5)年からは横浜に居を移し、日本郵船歴史資料館を経て、2003(平成15)年以降は日本郵船歴史博物館において、常設展示スペースに足を踏み入れたすぐの場所で、堂々と来館者を迎えています。

※1 我社の大丸・文筆家内田百閒(1889-1971)が当社嘱託時代に記した「天水桶ノ莖」中の言葉。「大丸」とはこの上なく貴重なもののため

※2 天水桶…雨水を溜めるための日本の伝統的な防火水槽。現在も寺社などで見られる

### 問い合わせ

### 日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時～午後5時  
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)  
1月31日～2月3日(2023年4月1日から当館の臨時休館)

- 入館料：一般400円、シニア(65歳以上)・中高生250円、小学生以下無料  
(NYKグループ社員と同伴者1人まで、社員証の掲示で入館無料)
- ウェブサイト：<https://museum.nyk.com>